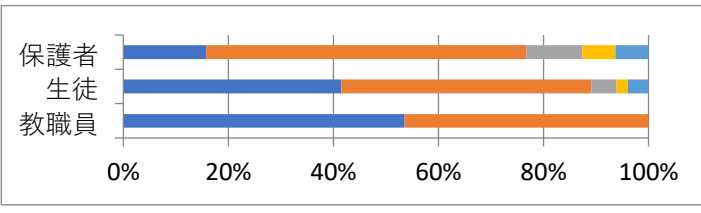
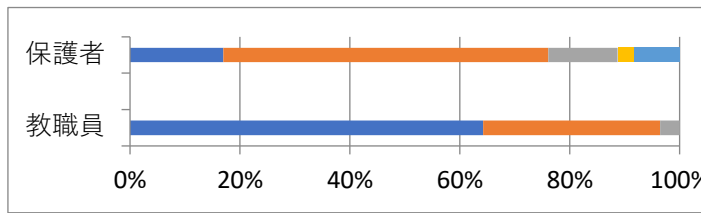


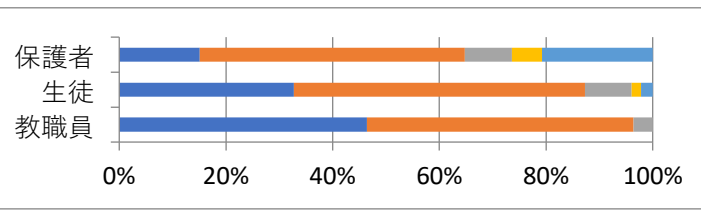
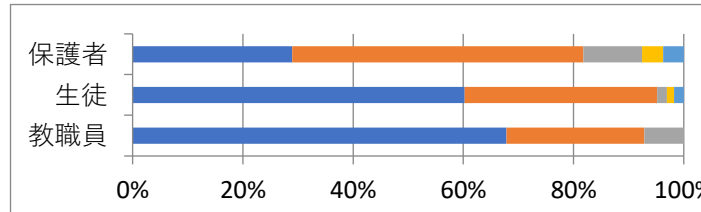
# 令和5年度 学 校 評 価

■ そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思う   
 ■ どちらかといえば、そう思わない   
 ■ そう思わない   
 ■ わからない

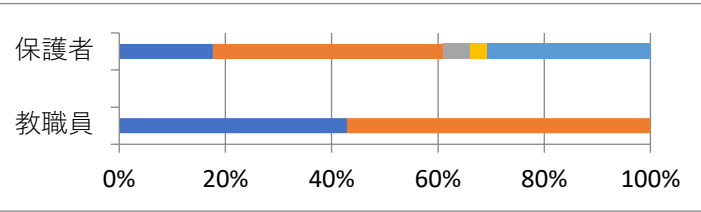
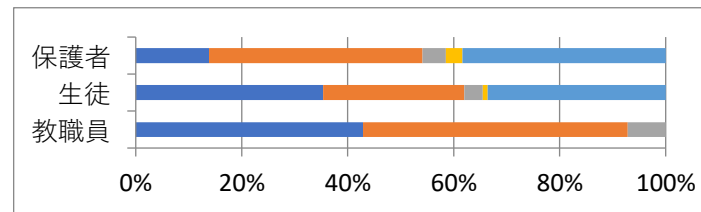
## ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
	
今年度は人権教育指導室の学校訪問があり、学校全体で重点的に人権学習の授業づくりに取り組んだ。また、学校の雰囲気が落ち着いており、生徒の学習に取り組む姿勢も良好であったため、教師は授業を中心とした学習指導等に専念することが可能であった。そのため、質問1における生徒の評価は高く、前年度を大きく上回った。一方保護者の評価は質問1・2ともに昨年度をやや下回っている。通信やホームページ等での啓発活動、学校と家庭が連携した交流や取組を今後工夫し、充実させていく必要がある。	

## ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
	
質問3・4ともに生徒及び教職員の評価は高い。今年度の校内研修ではICTの有効活用と生徒が主体的に学ぶ授業に重点を置いて取り組んでおり、その成果が表れているといえる。全職員が思考や対話のツールとしてタブレット端末を使うことを意識するようになり、生徒の学習支援として有効に活用する場面が多く見られた。生徒も学習のツールとして自然にタブレット端末を操作できている。一方保護者からの評価が低いのは、学力の向上につながっていないことがうかがえる。今後は学力の定着に向けた方策を講じていく必要がある。	

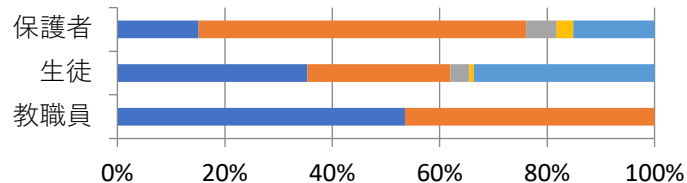
## ③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
	
質問5・6において、否定的な回答は昨年度よりも減っており、わずかではあるが共生社会、特別支援教育に対する理解は向上しつつあると感じる。日頃の授業や休み時間等の生徒の様子からは、特別支援学級と通常学級の障壁は感じられず、温かい雰囲気の中で自然に交流がなされているように感じる。今後は、多様性を認め共生社会を実現するための学校の取り組みについて、家庭や地域に啓発していく必要がある。	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

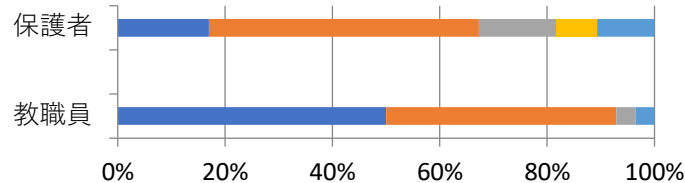
7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。



8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

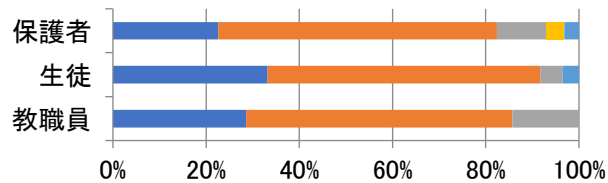


生徒の命を守ることを最優先課題と捉え、諸問題に対応してきたが、質問7における生徒の評価は低かった。安全に関する全体指導や事故防止関連の啓発に改善が必要であるとする。校内における事故防止は十分達成できているが、自転車通学のマナーには課題がある。今後家庭、地域と連携を図りながら対応していきたい。質問8においては、コロナ禍が明け学校行事やPTA活動も再開し始めたが、保護者の評価は低かった。PTAや部活動育成会は学校にとっても協力的なので、連携のあり方をPTA等と話し合いながら工夫していきたい。

⑤学校独自項目

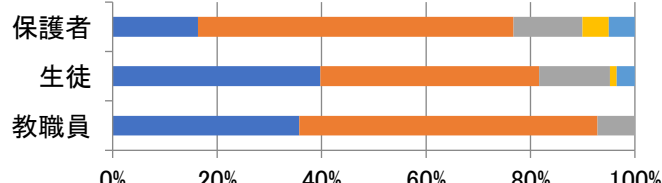
9 本校の教育①

学校は、多様な意見を参考にしながら生徒自身で物事を決定するような指導をしていますか。



10 本校の教育②

学校は、生徒が自分の思いや考えを周りの人に伝えることができるように指導していますか。

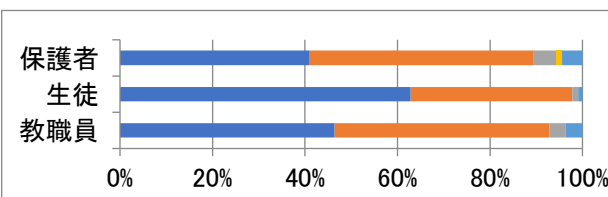


学校教育目標「自律と協生」のもと、自ら考える力や協働的な学びを大切にした授業づくりと生徒主体の学校行事を研究の中心に据え、主体的な学びの習得と自治力向上を目指して取り組んできた。また、生徒指導においても生徒に自己決定の場を与えることを全職員で心掛けてきた。質問9における良好な結果は、本校が本年度努力してきたことへの評価であるとする。質問10においては、教師はアウトプットを意識した授業改善に努めたが、生徒自身が手ごたえを感じていない部分があると考えられる。授業改善に向けた努力を継続していきたい。

⑤学校独自項目

11 本校の教育③

生徒は、友達と協力して活動する中で、友達の良さを認めることができていると思いますか。



特別活動において、各行事ごとに実行委員会を立ち上げ、生徒が主体となり学校行事の企画と運営を行った。生徒の意見を尊重し、PDCAサイクルの中で一つの目標に向かって協力し高めあう経験を積ませ、生徒同士のつながりを生むことができたとする。そのような本校の一年間を通じた取組が質問11の良好な結果につながったとする。

## 来年度の具体的な取組について

- ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応
  - ・生徒一人一人との対話と関わりを大切にし、生徒の変化に気づき、声をかけ、寄り添うことを大切にする。
  - ・家庭とのつながりを軸としながら、関係諸機関とも迅速かつ積極的に連携を図り、一人一人に必要な支援を行う。
- ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進
  - ・ICTを有効に活用し、「楽しい授業」を「わかる授業」につなげる授業改善を推進していく。
- ③教員が子供と向き合うための体制の整備
  - ・道徳または人権学習の授業参観を年間計画に位置づけ、家庭と連携した人権教育、道徳教育の実践に努める。
- ④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進
  - ・PTA及び地域の諸団体との連携を強化し、環境整備にあたる。
- ⑤学校独自項目
  - ・学校教育目標を全職員が意識し、授業実践、特別活動の活性化に努める。
  - ・言語活動の充実に向けた研究を進める。

## 学校関係者評価

学校評議員会を学期に1回ずつ開催した。1学期と3学期は授業参観と意見交換、2学期は学校指定物品検討委員会、校則等検討委員会を行った。生徒の落ち着いた授業態度、校外における挨拶の向上に高い評価を得た。体育大会でも学校評議員を来賓として招待し、生き生きと自主的に活動する生徒の姿に良い印象を持たれた。学校指定物品検討委員会、校則等検討委員会においても、市の指針に従い、生徒や保護者の意見に寄り添いながら改正したことに理解を得ることができた。